

世界の難民情報を伝える

UNHCR NEWS

United Nations High Commissioner for Refugees

Number

7

JULY 1998



Contents

Special Report

「みどり一本運動」に
支えられる植林活動

Update

世界各地の難民状況

Campaign Report/Information

電力総連「息の長い難民支援活動」

アジア連帯委員会(CSA)「アジア地域の難民を支援」

H.S.A協会(理容芸術協会)「若者たちに難民援助の呼びかけ」

PAC-4「タッチ・フットボールに汗を流して」

総合警備ありがとう運動「ありがとうの心を世界の仲間に」



UNHCR

国連難民高等弁務官 日本・韓国地域事務所

「みどり一本」運動に 支えられる植林活動

(1996年1月1日～12月31日)

大量難民の流入は、“自然環境”と深い関わりがある。難民たちは、煮炊きや暖を取るため薪(たきぎ)を求めて木を乱伐し、連れてきた家畜が柔らかい木の芽を食べ尽くしてしまうからだ。1979年にパキスタンに流入した300万人のアフガン難民は、あっという間に、あたりを「はげ山」に変え、深刻な自然破壊を引き起こしてしまった。

「みどり一本」は、1981年、こうした窮状を知った犬養道子さんの提唱によって始められた植林支援活動である。それ以来、UNHCRのパキスタンでの植林活動に全国から支援が寄せられてきた。1987年、パキスタンでの活動は成功をおさめ、UNHCRから現地政府と世界銀行に引き継がれた。それ以降、みどり一本に寄せられる寄付は、スーダンでの自然環境の回復をめざした援助にあてられることになった。

81年から96年末までに総額3億7000万円以上が日本の支援者からUNHCRの植林活動に贈られた。

UNHCR/F.Naylar



15万本の苗木が育てられた、ショワクの苗木。

1. 目標

この計画の目標は、難民の長期滞在によって悪化したスーダンの自然環境の回復である。主に難民と地元スーダン人に燃料や建材、飼料(かいば)を供給できるような環境づくりを推進する一方、自然環境の回復、既存の施設や事業の維持を行なっている。

2. 援助対象者

援助対象者13万4502人のうち、約80%はエリトリア難民、20%がエチオピア難民である。1967年から85年の間にこの地域に大量に流入し、ピーク時には110万人にも達した。難民の約45%は遊牧民、35%は自給農民、そして残りの20%は半遊牧・自給農民(季節によって自給用の農作物をつくる)である。難民だけでなく、植林地の近くに住む地元スーダン人約8万5000人も恩恵を受けてきた。成人男性の占める割合は低く、大半は女性と子どもである。

3. 実施団体

計画は、UNHCR、COR(スーダン政府難民担当局)、ENSO Forest Development Oy Ltd(フィンランドの民間非営利団体)そしてFNC(スーダン森林公社)の4者間で結ばれた合意のもとで実施されている。ENSOとFNCは現場での計画実施、CORとUNHCRは監督・モニタリングを担当する。

ENSOからFNCに業務を引き継ぐため、FNC現地担当職員を対象とした研修も行なわれた。

4. 援助内容

この計画は、(1)種の確保、(2)苗床での苗木の育成、(3)植林活動、(4)植林地の拡大事業などを主な内容として1984年に始められた。現在スーダン東部にある13か所の難民定住地で実施されている。

(1)種の確保

アカシアの種1050kgとユーカリの種5kgを購入した。さらにユーカリの種30kgと日よけ用の木を地元で採集した。

(2)苗床事業

1996年には計111万本の苗木が育てられ、拡大事業の一環として植林地に植えられた。

エルファウ苗床 84万本(ENSO)

ショワク苗床 15万本(FNC)

スキ・アブ・ジェリ苗床 12万本(FNC)

さらに30万本が灌漑地に植林される予定。十分な堆肥が施されなかったユーカリ以外は苗木が順調に生育し、肥料を必要としなかった。

地元アカシアの種 セネガル、セヤル、メルフェラ 600kgはミグレとハワタで直植えされ、生育率95%という好結果である。

苗床で使用する工具や器具(くわ、じょうろ、手押し車、すき)を新たに購入し、古い器具の手入れも行なわれた。

FNCから苗木袋80万個と鉢1000個を購入した。

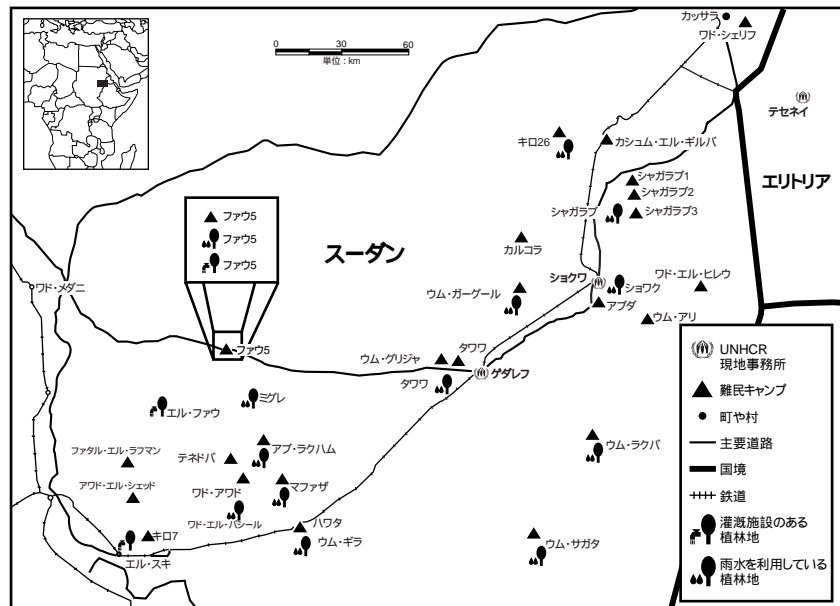
苗床の草抜き、苗木の植え付けと外気当ては、トラックを利用した移動式苗床と植林地への苗木の輸送を開始した後、96年3月から6月までの間に行なわれた。

苗床で働く正職員は前年度と同じく7名、さらに女性を中心とする季節作業員50人が労働に従事した。また必要に応じて現場作業員が400人以上動員された。

給与は、無線技師1名、トラック運転手、苗床作業員76名、苗床と植林地の警備員に支払われた。作業員と警備員の80%は難民と避難民である。

(3)植林活動

これまでに植林された苗木は600万本以上にのぼり、計画は大きな成果を上げてきた。雨水を利用した各植林地は、総面積が4138ヘクタール(ha)に達し、地元原産の各種アカシ



アの苗木が植えられた。一方、灌漑施設のある植林地は223haに拡大され、主としてユーカリが植えられている。1996年末で植林地は、計4361haになった(次頁の表を参照)。

スーダン政府は、5万ha以上の土地を植林事業の対象地として指定した。FNCによると1997年には新たに4000haを追加指定する予定。

トラクター1台を新たに国外から調達し、植林対象地の土地整備、パトロール、防火帯設置のために使用している。

雨水を利用した植林地

ワド・エル、シャガラブ、ミグレでは1996年5月、東部スーダン農業開発計画(ショワク)からトラクターを借り、土地の整備が始まった。計1000haが耕され、各種のアカシアの苗木が植えられた。また500haが耕され、種がじかに播かれた。さらに95年に整備されたシャガラブとハワタの植林地計200haでは、再植林が行なわれた。

火災の発生と延焼を防ぐため、全長175キロの防火帯が植林地の内外に設置された。

灌漑施設のある植林地

ファウ5地区

24haのユーカリ林には、主水路からポンプで水をくみ上げて水まきが行なわれた。水まきはうまくいった

ものの、ユーカリの生育状況は前年ほど良くない。25haのアカシア・セネガル林には、乾季に2回、追加の水まきが行なわれた。

さらに50haの灌漑地が追加される予定だったが、他の水利事業で見込まれていた新たな水路建設がとりやめになったため、実施が見送られた。ポンプによる水まきは、土地の傾斜を利用した灌漑よりもコストが高い。この植林地での費用回収は、あまり見込めない見通しである。

スキ地区

140haの植林地には、ほぼ年間を通して十分に水まきがされ、生育状況も普通である。7haが入札にかけられ、売却益はスキでの新規森林事業に再投資された。2haは伐採され、難民とキャンプ周辺に住む地元スーダン人に安く販売された。

アブ・ジェリ苗床では、飼葉用植物50本が植えられ、苗木6万本の植林準備が整った。また予定通り、若木のまわりの草抜きも行なわれ、防火帯が設置された。

また、この植林地では管理体制が整えられ、生長した木は建物の柱や薪用に伐採された。また、そこで得られる収入を管理して、回転資金を運営する委員会も設立された。

さらに、森林の保護と回復の重要性を啓発するセミナーも、地元教師と関係者を対象に開催された。この事業に難民の参加を促すために、新たな環境教育の進め方も検討されている。

その他の地域

メダニ・ゲダレフ間の道路沿いでは30haの土地が耕されたが、うち植林されたのは15haにすぎなかった。灌漑局が約束した量を給水しなかったためである。残りの土地に植える予定の苗木は、エル・ファウ苗床で植え付けを待っている。

(4) 植林地の拡大事業

主にスキ、シャガラブ、ハワタ、ゲダレフ地区の囲い地での植林が行なわれた。そのため難民と地元スーダン人に8万4000本以上の苗木が提供された。

ハワタでは、森林保護と回復に関する3日間のワークショップが開かれ、教師や拡大事業のスタッフなど合計21名が参加し、熱効率のよい土製コンロ(かまど)の使い方について指導を受けた。また、学校対抗植林コンテストの優秀校が表彰された。

エル・ファウ、ハワタ、スキの近くの3つの村では、結成された女性の3グループが、農林業について学び、土製コンロの作り方を教わった。

その他(一般植林計画)

職員(常勤)

ENSO計画担当官1名のもと、森林検査官7名と運転手3名を含む17名の常勤職員が従事している。

UNV(国連ボランティア)の農業・森林官が96年3月に到着。FNCとENSOのコンサルタントと連携しつつ、植林活動の計画立案とモニタリングの一部を担当している。

結論

地元スーダン人や難民は、この再植林活動の継続を望んでいる。この活動は、難民の流入によって引き起こされた環境破壊の進行をとめ、さらに、地元スーダン人と難民の双方

に雇用の機会を提供しているからである。その結果として、地元住民と難民との間の緊張を和らげることに役立った。

97年度も事業は継続し、さらに植林地の拡大をめざす予定である。

1. 雨水を利用した植林地

地名	面積(ヘクタール)	種類
ワド・エル・バシール(Wad El Beshir)	1,703	セネガル、セヤル、メルフェラ
ウム・ギラ(Um Gira)	508	セヤル、セネガル
ウム・サガタ(Um Sagata)(1)	342	セネガル、セヤル、メルフェラ
シャガラブ(Shagarab)	517	セヤル、メルフェラ、パーキンソニア・アクレアタ
キロ26(Kilo 26)	21	セネガル、プロソピス・シャレンシス
ファウ5(Fau 5)	57	パーキンソニア・アクレアタ、セネガル、セヤル、メルフェラ
ウム・ラクバ(Um Rakuba)(2)	31	セヤル、プロソピス・シャレンシス
ショワク(Showak)	94	アカシア混合種
ミグレ(Migereh)	546	セネガル、セヤル、ニロティカ
アブ・ラクハム(Abu Rakham)(3)	273	メルフェラ、セヤル
タワワ(Tawawa)(4)	4	セネガル、セヤル、メルフェラ
ウム・ガーグル(Um Gargur)(5)	42	セネガル、セヤル、メルフェラ
面積小計	4,138	

注:「セヤル」、「セネガル」、「メルフェラ」、「ニロティカ」はアカシア種

2. 灌漑施設のある植林地

地名	面積(ヘクタール)	種類
スキ(Suki)	179	カマルドゥレンシス、ミクロテカ、ニロティカ
エル・ファウ(El Fau)(6)	24	カマルドゥレンシス、セヤル、セネガル、ニロティカ
ファウ5(Fau 5)	20	ミクロテカ、カマルドゥレンシス、セヤル
面積小計	223	

注:「カマルドゥレンシス」と「ミクロテカ」はユーカリ種。どちらもこの地域にすでに根づいているもの。生長が早いので、日常的に必要な薪を供給するのに適している。

*アカシア種には年2回(乾季)しか行なわれないが、ユーカリ種には年間を通じて水まきが行なわれる。

- (1)ウム・バラシュ、アディングラ、ダヘイマ、サルミン、ズルズルを含む。
- (2)民間非営利団体の米国CAREの苗床に残された苗木を利用して1985年にオープンした。それ以来、自然回復林として政府森林局(ドカ駐在)の保護下にあり、正式に引き渡されたわけではない。この地域では現在活動は行なわれていない。
- (3)ワド・アワトを含む。
- (4)1996年の「アフリカ難民の日」に開設され、ゲダレフ州に引き渡された。
- (5)1989年に開設され、94年に東部スーダン農業開発計画の一部として引き渡された。
- (6)ゲダレフを含む。

スーダン国内の状況(1998年現在)

1983年以来、スーダンでは政府とスーダン人民解放運動(SPLA)との内戦が南部で続いている。これに追い討ちをかけるように断続的に干ばつが襲った。現在も周辺諸国に逃れている難民は計40万人以上。また、98年1月に出された「国連機関共同アピール」によると、スーダン全土で400万以上の人々に緊急援助が必要であるとされる。特に今年は、94年と同じような危機的状況になると予想され、内戦の激しい地域では、避難民の間にすでに栄養

不良と感染症が蔓延しているという。アピールの予算1億1000万ドルのうち、半分は食糧援助に、残りは水、栄養、保健・衛生、農業、物資の輸送などに充てられる予定。

UNHCRは、この中で主にエリトリア難民定住地やエチオピア難民キャンプのある同国東部での援助活動を行なっている。今年6月、エチオピア難民の帰還5か年計画により700人が故郷に戻り、スーダンに残るエチオピア難民は約8000人になった。

Update

世界各地の 難民状況

詳細はインターネットの
ホームページ(英語版)をご覧ください

<http://www.unhcr.or.jp>

UNHCR、 シエラレオネ難民 緊急アピールを発表

UNHCRは、反政府武装勢力による殺傷行為やレイプを逃れてギニアとリベリアに大量流入したシエラレオネ難民に対する緊急援助のため、730万ドル(約10億円)を求めるアピールを発表した。この予算で、UNHCRは両国における援助活動を今年末まで続けられる予定である。

ソーレン・イエッセンペーターセン高等弁務官補は先週末、シエラレオネとの国境に近いギニアの難民キャンプを訪れた。手足の切断など残酷な仕打ちを受けた難民を見舞った高等弁務官補は、大きなショックを受けたと次のように語った。「シエラレオネからの難民はひどい状況にあり、私たちは最大限支援しなくてはならない。救援活動を続けられるよう、抛出国には寛大かつ速やかな援助をお願いしたい。」

今回のシエラレオネからの大量難民流出は、反政府集団が中央政府を倒した1997年5月に始まった。今年2月には、西アフリカ平和維持軍が反政府勢力を首都から追放したが、追放された者たちが報復措置として、略奪や殺傷、レイプを始めた。その結果、新たにギニアに18万2000人、リベリアに5万5000人が逃れ、7年をこえる内戦を避けて両国にとどまるシエラレオネ難民の数は53万人にふくれあがった。リベリアへの流入は止まったが、ギニアには依然として小規模な流入が続いている。

UNHCRはギニアとリベリアの職員を増やし、雨季の前に食糧、毛布、ポリ容器などを運ぶよう急いでいる。さらにほかの援助団体と協力し、キャンプに保健、給水、医療、社会サービスの体制を整備している。

新たに到着した難民の大部分は女性と子どもで、多くは重度の栄養失調にかかっている。

(1998年6月2日 現在)

国連が1800万ドルの アピールを発表

コソボ紛争の避難民援助に6月16日、国連の主要な人道援助機関が、コソボ紛争の被害で家を追われた避難民への援助アピールを発表した。援助金は、避難民を受け入れた地域の支援にも使われる。

国連の諸機関は、ユーゴスラビア連邦セルビア共和国・コソボ自治州からの大量難民流出に伴い、バルカン諸国の中でも特に貧しいアルバニア、モンテネグロ、コソボでの援助活動に乗り出した。同地域は、物資の運搬や治安上の問題が多く、援助機関の職員にとっても活動が展開しにくい場所である。

今回の資金アピールは、新たな難民流出も予想されるため、国連合同アピールの形で発表された。参加機関は、UNHCR、国連児童基金(UNICEF)、世界食糧計画(WFP)、世界保健機関(WHO)、国連開発計画(UNDP)、国連人道調整官事務所(UNOCHA)の6機関。

コソボ救援活動の指揮を執る緒方貞子国連難民高等弁務官は、「コソボ紛争が平和裏に解決するよう願っていますが、さらに大量の難民が出ること事態も想定して準備しておく必要があります」と述べた。

抛出国宛てに出されたアピールは総額1800万ドルだが、そのうちUNHCRの活動に当てられるのは、1290万ドルになる。(98年6月16日 現在)

UNHCR、 国際刑事裁判所の 設立を支持

UNHCRは6月16日、幅広い管轄権をもった国際刑事裁判所(ICC)が設立されれば人道に対する犯罪の抑止と難民流出の予防に役立つであろう、との見解を表明した。

ローマで開催された国際刑事裁判所の設立をめざす外交会議において、ソーレン・イエッセンペーターセン高等弁務官補は、「公正な裁きの実施が、道義上どうしても不可欠な前提だ」と述べ、「痛ましいことだが、この集まりの最中にも、シエラレオネでは一般市民が反政府勢力による残虐行為の犠牲となり、カンボジアや旧ユーゴスラビア、ルワンダの忌まわしい記憶を呼び起こしている」と訴えた。

高等弁務官補は、世界では国家間の戦争よりも国内紛争のほうが増えたため、国際刑事裁判所は国内紛争での犯罪行為を裁くべきだと主張する。「内戦で引き起こされる犯罪も、国際紛争でのものと同じように忌まわしい行為だ。国際社会はこの点を警告すべきだ。」

刑事裁判は和解と平和を達成するカギとなる。そして紛争が終わって難民が帰還した国で、UNHCRが支援活動を行なう際に基本となるのも、和解と平和だ。「正当な裁判こそが、多くの犠牲者にとって、罪を許し、ふたたび共に生活できるようになるための最も重要な前提となる。」

UNHCR職員は近年、一般市民が戦争犯罪や人道に反する犯罪の犠牲となる多くの例を目撃している。さらにUNHCRは、民間人への武装攻撃、人道援助の拒否、強制移動、対人地雷の埋設、人道活動要員への攻撃についても、国際刑事裁判所の管轄に含めるよう働きかける方針である。

(98年6月16日 現在)

Campaign Report/Information

電力総連

息の長い難民支援活動

電力総連とは、電力関連産業に働く約26万人の組合員を擁する労働組合である。正式には「全国電力関連産業労働組合総連合」という。

電力総連は、早くから継続的に難民援助活動を支えてきた団体の一つである。最初にUNHCRへの支援を行ったのは1986年(当時の名称は、「電力労連」)のこと。それ以来、ほぼ毎年100万円をインドシナ難民の援助活動に寄せてきた。

94年のルワンダ難民流出の際には、未曾有の難民危機にいち早く対応して約300万円の追加支援を行なった。さらに96年からは、ルワンダの緊急アピールに応じて、毎年200万円ずつ寄付を行なっている。

山下伸二組織担当部長は、「組合員



UNHCR/H.J.Davies

高タンパク・ビスケットの配給を待つルワンダ難民。ビスケットは、緊急に必要だったため、空輸された。

の社会貢献活動への参加意識を高めることを目的に、毎年、組合員を対象に任意のカンパを行なっています。UNHCRへの支援金はこのカンパ金から拠出しています。こうした組合員

の気持ちを生かすよう、UNHCRにはこれからも地道な活動をお願いしたい。私たちも今後も継続的な支援を行なっていきたい」と話している。

アジア連帯委員会(CSA)

アジア地域の難民を支援

アジア連帯委員会とインドシナ難民との関わりは古い。もともと「インドシナ難民共済委員会」としてインドシナ(ベトナム、ラオス、カンボジア)3国の難民の救援を目的に発足した。その後83年に「インドシナ難民連

帯委員会(CSIR)」と、さらに96年に「アジア連帯委員会(CSA)」と改称。

日本国内で独自に定住者への支援を展開する一方、UNHCRに協力してタイ国内のラオス難民やベトナム難民キャンプに中古衣類、学用品、運動具などを贈ってきた。

特に94年からは、難民生活を終えてラオス本国に帰った人々の再定住

促進のために小学校建設や教育分野での援助に力を入れてきた。今年2月には、昨年の支援金1200万円によって建設された2校が完成。これまでに計5校が贈られた。CSAでは、今年度中にさらに2校を建設しようとキャンペーンを展開中。また、設立20周年を迎える2001年初めまでに計10校を完成させたいとしている。

H.S.A協会(理容芸術協会)

若者たちに難民援助の呼びかけ

H.S.A協会は、全国で約2000名の理容師の会員で構成されている研究団体。1994年から会員に難民援助への協力を呼びかけ、年に一度開催して

いる「H.S.A全国フェスティバル」会場での募金とともにUNHCRに支援を寄せてきた。これまでに約50万円が、ルワンダ難民や難民の子どもたちへの援助活動のために寄せられている。

「何かの活動に協力していきたいと探しました。難民援助に決めたのはこの会の『世界に飛躍しよう』という

理念にも、合っていたからです」。

昨年秋に開催された、「第14回フェスティバル」では、約1200人の観衆の前で全国から参加した若者たちが、日頃の練習の成果を競い合った。「ほとんど知られていない難民のことを若者たちに訴えていきたいんです」と事務局の関口さんは抱負を語った。

写真提供：垣原弘道

PAC-4

タッチ・フットボールに汗を流して

PAC-4とは、アメリカ西海岸にあるスタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校、同大学ロサンゼルス校そして南カリフォルニア大学4校の日本にある同窓会の連合会のこと。PAC-4は、92年以来、毎年11月に母校で行なわれるアメリカン・フットボールの伝統試合を記念して、日本でタッチ・フットボール(注1)大会を開催してきた。100名以上の同窓生やその家族が見守る中、「宿命のライバルを倒そう」と試合に汗を流す。ゲーム終了後には、パーベキューを囲む懇親会を開き、その会費や会場募金、記念Tシャツなどの売上金をUNHCRに贈ってきた。

92年以来、PACから寄せられた寄



横須賀の海軍基地内のグラウンドで開かれた96年大会。毎回、企業や団体の好意で、無料でグラウンドを借りているという。

付は60万円以上にのぼる。事務局を担当する垣原弘道さんは、「スポーツで汗を流し、交流を深めそして難民問題について知ることができる。そ

れがいいのです」と語る。

注1 このスポーツは、攻める側も守る側もタックルをせず、タッチして進むという点が、通常のアメリカン・フットボールと異なる。

総合警備ありがとう運動

「ありがとうの心を世界の仲間へ」

この運動は、「“生かしかされるありがとうの心”を理念とし、国の内外を問わず社会に奉仕すること」を目的として、1967年、総合警備保障(株)の創業者、村井順さん(故人)によって設立されたものだ。

総合警備連盟各社の役員・社員の給与から毎月、自主的に控除される会費(1ヶ月一口100円)や自主的に寄せられる寄託金をまとめ、国内外の社会福祉・奉仕活動や文化・スポーツの振興、災害時の援助などを支援している。難民援助にも早くから取り組み、ピアフラ飢餓民、インドシナ難民の支援を行ってきた。



98年6月5日、トローラーUNHCR日本・韓国地域代表に寄附を手渡す
衆 英次事務局長(左)。



「総合警備ありがとう運動」の
パンフレット

設立30周年を迎えた昨年からはUNHCRの援助活動に協力して、300万円の寄付を贈っている。

読む資料・見る資料

さしあげます

季刊誌

「難民 Refugees」—— 難民問題の現状と保護・援助のあり方をめぐる情報誌。特集には難民保護と国際社会の対応、人道援助活動をめぐる将来の展望など、各層の視点を紹介します。

パンフレット

1 難民女性とは—— 難民の8割をしめるのは女性と子ども。暴力の犠牲となりやすい女性たちの実態を取り上げます。
2「リーフレット」—— UNHCRの活動や難民問題の解決方法などを、イラスト入りで簡単に紹介しています。

「わたしたちの難民問題」—— 大学生などUNHCRの若いボランティアが中心となって高校生向けにつくった入門書。（「僕たちの難民問題」改訂版）

「難民問題の手引き」—— 「難民問題の現状」「地域別にみる難民問題」「UNHCRの活動」などを教師向けにまとめました。サイズ変形A5版

「難民の子どもたち」—— どうして難民になったのか、逃げる途中でどのような経験をしたのか、キャンプではどんな生活を送っているか、そして将来の夢など、子どもたちの声が聞こえてきます。小学生から高校生向け（20頁）

1. **ポスター 2種類**—— 世界の難民の子どもが描いた絵画から、アフガン難民（12歳）とスーダン難民（17歳）の作品2点を選んでポスターにしました。
サイズA2（42×59cm）

2. **ポスターセット**—— 難民地図、UNHCRや難民などについての説明と写真で構成したセット。10枚一組。サイズA2（42×59cm）

UNHCR 早わかり

UNHCR 早わかり（最新版1997年11月発行）
UNHCRの概要

ニュースレター

UNHCR News（現在の難民の状況とUNHCRの援助活動）

募金箱

難民援助の募金にご協力ください。
ボール紙製 8.5×18×13cm
プラスチック製 8.5×18×13cm
プラスチック製は折りたたみ不可
詳しくはお問い合わせください。

お貸しします

展示用パネル—— 文字、写真パネル、世界難民地図を合わせ20枚が一組です。（68×47cm）貸し出し希望期間、使用目的、主催者をお知らせください。（ご要望が多いため、2か月前にはお申し込み下さい。）

ビデオテープ

1（日本語吹替え版・字幕版）
ほんのちょっと変えてみよう（14分）
2（日本語吹替え版）
世界の難民はどこに'95（19分） 難民女性（13分）
3（日本・韓国 地域事務所制作）
難民もみんな同じ地球人（19分）中学生向き

UNHCR日本・韓国 地域事務所はホームページを開設しています。ぜひご活用ください。
<http://www.unhcr.or.jp>

お問い合わせ先

UNHCR日本・韓国 地域事務所
広報室

〒107-0052 東京都港区赤坂 8-4-14
TEL03-3475-4882
FAX03-3475-4884

資料や募金箱は、基本的に無料です。ただし送料と、資料枚数の多い場合はコピー代がかかります。広報室宛に、ご質問も含めて官製はがきでお申し込みください。できる限り着払い（宅急便または郵便小包）をお願いいたしますが、ご無理な場合、送料分の切手を、資料受け取り後、同封のアンケートと共に広報室宛てにご返送ください。

UNHCRニュース NO.7
1998年7月

発行
UNHCR日本・韓国 地域事務所
広報室
郵便振替
口座番号：00130-4-59734
加入者名：UNHCR

表紙写真 左上：UNHCR/H.J.Davies 右上：UNHCR/L.Taylor
表紙写真 左下：UNHCR/R.Burrows 右下：UNHCR/A.Hollmann